



かすがたいしゃ

春日大社は、どんな神社なの



ふじわらし うじがみ
藤原氏の氏神など4神を祭った神社で、たくさん
の国宝・重要文化財があるんだよ。

平城京の守り神として、藤原氏の氏神を祭ったのが始まり

春日大社は、710年に藤原不比等が、藤原氏の氏神(一族の祖先として祭る神)とされる、常陸国鹿島(茨城県鹿嶋市)の武甕槌命を、平城京の守り神として笠山に祭り、「春日の神」とよんだのが始まり、と伝えられています。768年に、下総国香取(千葉県佐原市)の経津主命、河内国枚岡(大阪府東大阪市)の天児屋根命、比売神を加えて、4神を祭る四つの社殿を建て、官社(朝廷の神社)として認められました。都が平安京にうつってから、藤原一門はもちろん、朝廷や民衆からも信仰を集めました。916年に藤原忠平が、盛大な参けいを行ってから、平安貴族の「春日もうで」が流行しました。

国宝・重要文化財が多い

本殿の4むねをはじめ、たくさんの建物や宝物が、国宝や重要文化財に指定されています。境内には約1800基の石灯籠と、約1000個の釣灯籠があり、2月と8月には、全部の灯籠に点火する行事(万灯籠)が行われます。3月13日には、昔からの方式の春日祭が行われます。

奈良公園のしかは、春日大社の神の使い

奈良公園には、約1000頭のしかがいて、観光客といっしょの写真をとられたりしてます。これらのしかは、武甕槌命が鹿島から乗ってきた白しかの子孫といわれ、神の使い、天然記念物として保護されています。